

2007年度 早稲田大学 教育学部

日本史 解答例

I 古代の東北地方 <やや易>

- 問1 伊治皆麻呂 問2 胆沢 問3 ウ 問4 オ
問5 イ・ウ 問6 オ 問7 エ 問8 オ

問7はちょうど10年前の同学部でも出されていた問題で、狂喜した人もいないか。過去問を解いておくことの重要さに気付くだろう。しかし、それよりもっと効率がいいのは、過去問分析に乗っ取った予備校の授業を受けることであるの言うまでもない。

II 元寇・キリスト教の伝来 <標準>

- 問1 エ 問2 イ 問3 ウ 問4 イ・ウ・オ 問5 オ
問6 ア 問7 ア・ウ・オ 問8 異国警固番役 問9 無学祖元

史料(1)は早稲田定番の史料。問6は消去法で絞り込もう。問4・7ともに選択肢オの判別に悩まされる。作問自体の瑕疵とも言えるが、大学当局はそんなことはおかないようなしのである。

III 慶安の御触書 <標準>

- 問1 地方知行 問2 下人 問3 ウ 問4 イ・ウ
問5 ア 問6 ア 問7 エ 問8 イ・オ 問9 エ・オ

最近「慶安の御触書」を「出ない」と言って教えない先生がいるらしいが、まったく教えていなかったらこの問題はどうなるのだろう。早稲田の過去問を分析していれば、避けて通ることができないのは明らかだった。問6・8が難問。

IV 明治時代の思想 <標準>

問1 a 徳富蘇峰 b 内村鑑三 問2 イ 問3 オ 問4 ア
問5 イ 問6 ア 問7 ウ・カ 問8 ア・イ・ウ

よもや小野梓を知らない早稲田受験生はいないだろうが、問2は正解できただろう。問7はあるテクニックを使えば解けた。問8も選択肢を比較すれば、なんとか正解することが可能だった。早稲田にはこうした考えて解く問題が多い。そこが慶應と違っておもしろいところである。

V 戦後の日本 <やや易>

問1 1 警職法 2 三池炭鉱 3 日米行政協定 問2 ウ 問3 オ・カ

問1の「略称で記せ」を読み飛ばさず解答しただろうか。また問3は通年授業では扱っていないが、冬期講習では扱っていた内容であった。

講評

全体としては早稲田らしい問題が随所にみられ、早稲田に適応した対策を取っているか否かで点差がつく問題であった。ただ、本学部が目立つ、正誤問題における「すべてあげよ」問題には悩まされただろう。